
阿片

早良敦司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

阿片

【NZコード】

N3739D

【作者名】

早良敦司

【あらすじ】

瀕死の吸血鬼と、一人の少女。諦念と緩やかな時の流れ

重く、粘ついた、不思議な異国の煙草。染み付いた煙の匂いを隠すように、念入りに振り撒かれた薔薇の香水の中を、桜の枝が揺れています。鉛色の厚いカーテンを背景に、それは枯れかけてくすんだ花をまだ残していました。

今日は、幾らか具合がいいのでしょうか。彼は寝台から身体を起こし、重い巻煙草を揺らしていました。微かに赤みが混じった髪の向こうから、物憂げな瞳が私を眺めます。

「早く。こっちは、来い」

掠れた声が、私を急かします。寝台の端に腰掛け、髪をかき上げると、彼は煙草を置き、ゆっくりと私の首に噛みつきました。じんわりと響く、鈍い痛み。その重苦しい痛みは次第に薄れていき、唇の柔らかな感触に変わっていました。

ねえ。貴方が牙を無くしてから、幾つ月が廻ったのでしょうか。もう、肌を裂く事など出来ないのに。なのに、貴方は、私に襲いかかるのですね。流れ出した暖かな血を、忘れられないよう。

彼は微かに息を乱し、寝台に倒れていきます。離れていく冷めた唇を感じながら、彼の、残り僅かな誇りを、私はどこか冷ややかに眺めていました。

「ほら…飲んで」

手首を滑ったナイフを、彼は見ようとはしませんでした。ぶつり、ぶつりと流れていく零を、彼は目を伏せ、微かに震えながら、舌先で舐めとっています。

苦しいですか。飼われるよう、人間から命を『えられる事は。他の何をもってしても癒せないという貴方の渴き。

私がそれを癒やす度に、気高く冷酷だった貴方は失われていく。それを知りながら、私は貴方に血を与えるのです。

噎せ返るような、薔薇と阿片の香。咲き誇れぬままに枯れていっ

た花。渦を巻き、立ち昇る蒼い煙。全てを包み込む芳しい嘘を、私はぼんやりと眺めていました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3739d/>

阿片

2010年11月28日15時21分発行